



七夕祈願祭

と き：令和3年7月7日（木）15時から

と ころ：津観音寺

今年の七夕祈願祭は、皆様のご参加は無しで、7寺社のみで開催を予定します。



伊勢の津七福神初代会長

倉島昌行大和尚を偲んで

■「利他行」先代昌行大和尚を偲んで

四天王寺住職 倉島隆行

先代昌行和尚の葬儀式には、多くのご弔問をいただき誠にありがとうございました。長寿時代においては少し早いお別れとなりましたが、皆様との数多くの仏縁を繋いでいただきましたことに、弟子として衷心より御礼申し上げます。



30年前、授戒会という大行事を厳修され、大本山永平寺より丹羽廉芳禅師を拝請され、皆様と一緒に一週間の修行による戒名授与式。また、住職を退董されてからは、伊勢の津七福神霊場会の開創発足など思い出を上げればきりがありますが、私は皆様と共に伊勢の津七福神霊場会を開創されたことが功績の一つであると考えております。

参拝される方への案内やお茶の接待など、先代の大切にされた「利他行」の実践は、四天王寺の門風として今でも継承されております。伊勢の津七福神霊場会では、昨年12月には友の会の皆様、霊場会の皆様、事務局様のお陰で開創8周年を迎え、周年法要を四天王寺で開催できたことこそが有りがたいご縁であったと感じております。先代が願った地域振興である伊勢の津七福神霊場会を今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。 合掌

■倉島昌行さんのこと

伊勢の津七福神友の会会長 西田久光

一から十まで 馬鹿でした

馬鹿にゃ未練はないけれど

忘れられない 奴ばかり

夢は夜ひらく (作詞・石坂まさを)



『圭子の夢は夜ひらく』の一節である。逝ってしまった昌行さんに思いを馳せていたら、なぜか脳裏にこの曲が浮かんだ。

和尚さんと初めて出会ったのは、僕が新聞記者を生業と決めた昭和五十一年（一九七六）の、確か晩秋だったと思う。当時の夕刊新伊勢新聞に連載していた歴史散歩に四天王寺を取り上げるべく取材に訪れた時に対応していただいたのである。百キロを優に超える巨漢、眼光鋭く…僕より二歳年上だが、共に二十代後半、まだまだ生きるに気負いある青年だった。お互い相手に同じような匂いを嗅ぎ取ったのだろうか、それからお付き合いが始まり、かれこれ四十五年になる。僕は今は一志に住まうが、その前は青谷におり、娘が四天王幼稚園にお世話になった思い出もある。

僕の心の中には昌行さんの顔は三つある。一つは巨漢時代の、大黒さんのような顔。二つ目は最初、親戚の方と間違えた体重半減、つまり今の顔。そして、お寺のことや地域を含め世の中のことに対して沸き上がる様々な思い、エネルギーに戸惑い困惑している内なる第三の顔。この第三の顔が時々外に噴出して人を巻き込み「伊勢の津七福神」のような形になる。踊る阿呆に見る阿呆 同じ阿呆なら踊らにゃ損々…四天王寺東堂・倉島昌行、決して洗練された上手な踊り手とは言えないが、最後まで踊り切った好漢である。 合掌

■四天王寺東堂の訃報に接し

結城神社 宮司 宮崎吉史

歳の差は親子程、鋭い洞察力と実行力は天と地程離れた雲の上の存在の方でしたが、いつもお話の最後に、にこやかな笑顔を向けてくださるのが心に残っております。心よりご冥福をお祈り申し上げます。



■倉島昌行東堂を偲んで

高山神社 宮司 多田久美子

平成 23 年の夏頃でしたでしょうか。この津に七福神を開創したいので、高虎公を祀る高山さんに加わって欲しいとお誘いを受けました。「一度、集まりに来て」と少し強引な印象を持ちましたが何かに導かれるように翌 24 年 12 月 2 日には開創の日を迎えていました。



それから約 10 年ご一緒に活動させていただいたことを振り返ると、よくお電話をいただきました。

巡拝者の数、これからの七福神のことなど……。当社では東堂さまからのお電話は「四天王様からラブコールですよ。」と繋いでくれました。どうも八の会の皆さまもそのお相手でいらしゃったとか。またこんなことも周年記念法会や観梅祈願祭時には、赤色の装束をつけておりましたが、「赤い色は晴れやかでよろしいな」と、柔らかなお顔で仰ってくださいました。

藤堂藩五日会に入会していただき当社の秋季例祭へご参列いただいた時、祭典後「立派にやっていますね。これからもがんばりなさいよ」と励ましのお言葉をいただいたので「あ、はい。」とだけ申し上げたように思います。

ご逝去の報を受けました時は、私は淡々とその事実を受けとめました。五七日の法要に霊場会の一員として参列をさせていただきました。遺影と共にいくつかのお写真があり、その中に法衣姿の少年時代のお写真があり、とても可愛らしく、幼い頃より仏の道を歩まれていたのだなと思うと、こみ上げてくるものがありました。人を引きつける不思議な力をこの頃からお持ちだったのですね。

東堂さまへ
幽世（かくりよ 神道で、死後霊の行く世のこと）
での幸を心よりお祈りいたします。 拝

■倉島昌行君を偲んで

初馬寺住職 近藤玄道

---遊びをせんとや生れける（梁塵秘抄）---



10 年前の夏、当寺の収蔵庫を整理中、小さいながらも大黒天・布袋尊・福祿寿・恵比須天・毘沙門天・寿老神・辯才天の七尊像を見つけた。どこかに並べてみたいけど、恵比須天だけはあまりに小さすぎるので並べるにはちょっととっていた。

その秋。のそーっと、久しぶりに当寺に現れた小中高と同級だった昌行君、聞けば「津の街の活性化のため神仏混交の『津の七福神』を立ち上げたい、一緒にやらないか？」との申し出。調べてみると全国どこにでもある七福神巡りが津市にはない。それに四天王寺も初馬寺も聖徳太子開創のお寺、今は宗旨が違えども

「和を以て貴しとなす」このご縁は当然のことと
考え快諾。

それからの約 1 年は七寺社代表と篤信の協力者たちと共に毎週のように会議を重ね、巡拝用の色紙、祈願旗、案内パンフレット、ホームページの作成、ノベルティの考案、マスコミへの周知 etc、etc とアドレナリン出っぱなしで、平成 24 年 12 月 2 日、津観音寺での『伊勢の津七福神開創法会』にこぎ着けたのも今はいい思い出になってしまった。

神仏の立場から見れば、人間のこの世での営みはすべて遊びに見えるのかも知れない。昌行君---十分に遊んだらうね。君の遺言「修業が足らん！」を肝に銘じて、残された我々はさらに真剣に遊んでみようと思っている。

因みに、当寺の恵比須天は丁度良い大きさの像を寄進されて、いま本堂の脇壇に他の六尊像と共に祀りしている。

それにしても、もう少し一緒に遊びたかった。
どうぞ天上界で悠々としていて下さい。

■東堂を偲んで

事務局 日比賢二



“1月12日11時、東堂の突然の訃報が届きました。療養中であることは以前から伺っていましたが、突然のことで思考も止まり言葉も出ませんでした。

密葬、津高3年13組の仲間との三七日お参り、伊勢の津七福神霊場会の皆様との四七日お参り・本葬と進む中で、心に大きな空白を感じておりました。

思えば高校二年からの付き合いでした。そのころから東堂の周りにはいろんな方が多く集まり、それぞれの時代の友はお互いに友人となり大きな輪(和)を広げ今に至っています。

ある日、車を運転しながら“伊勢の津七福神”の活動について考えていた時、突然目の前に東堂の姿がみえたのです。“東堂 居たんか!!”東堂は、私たちの近くに何時も居てくれるんだと思いました。

東堂から教えてもらった事が多くあります。3年ほど前のことですが、その一つを紹介します。愛媛の高昌寺住職様から東堂への言葉だと思えます。

東堂老師へ

五誓

- 一. 至誠に悖る(もとの)なかりしか
- 一. 信義に背くなかりしか
- 一. 礼儀に欠くるなかりしか
- 一. 無精に亘るなかりしか
- 一. 努力に恨みなかりしか

愛媛高昌寺九拝

東堂から、ひと言も無く、この“五誓”を渡されました。私の事務机に“五誓”が貼ってあります。この言葉は、人としての基本姿勢をあらわしており、まさしく東堂の心情であり行動そのものであったと思います。

東堂は、言葉少なく眼光鋭く老師そのものでした。しかし、相談事には親身に優しく気持を和らげて頂きました。昼食後のひと時には、うたた寝し気分が乗らば演歌も口ずさみます。このコロナ旋風のなか東堂はどこを巡拝されているのかな・・・。

■東堂様

四天王寺 八の会 藤岡美也子



30年近く、東堂様には大変お世話になりました。伊勢の津七福神の立ち上げの折も、数多くの神社・寺めぐり、楽しかったですね。

淋しい時、悲しい時、いつも暖かく迎えてくださりまして、ありがとうございました。

最後のお願いです。そちらにも八の会のような楽しい場所を、先に行かれました、矢川様、尾上様と作って待っていてください。近々参上いたします。

■見守っていてください

四天王寺 八の会・事務局 亀井佳代子

四天王寺の生き大黒天様でした。



東堂様。
そんな大黒天様が微笑むと幸せを招いてくれたのに・・・♡

あまりにも早い彼岸への旅立ち、淋しいです。三面大黒天様の後ろからでも皆の事見守っていてくださいね。

■「七福神に守られて」

事務局 池上悦美

「伊勢の津七福神は百年の計だぞ」といってもおっしゃっていた東堂さん。百年先も残る事業に関わって9年。



生まれ育った津市に帰って3年がたった頃だった。寺の会議に行くと高校の同級生もチラホラ。

開創の日、12月2日は寒い日でした。甘酒をいただいたり、焚火に当たったり、受付をしたり。ほら貝が鳴ってよいよ入道です。神主さん2人、僧侶6人、それはそれは晴れやかな会でした。

友の会を作ることになり、たよりがあつたら良いのではと編集長をまかされた。そして年に3回、25号まで、東堂氏のお知り合いの僧侶や、お寺の婦人会の方に原稿をお願いしてきました。

「継続は力」です。東堂氏とのご縁は私の人生の色模様となってこれからも支えてくれることでしょう。

東堂さんの在りし日…大門の中を雁行



※東堂とは、曹洞宗では、住職を後継者に譲り、引退した禅僧のこと(前住職)を言います。

開創法会(平成 24 年)



伊勢の津七福神 吟行② 伊藤芳樹さん作 (津市藤方・楓社漢詩会)

初馬寺

巷間の小さき名利初馬寺

眞言古刹在街衝
 太子創基民衆鐘
 坐像開扉初午会
 観音功德馬頭恭

真言の古刹街衝にあり
 太子創基し民衆鐘まる
 坐像を開扉す初午会
 観音の功德馬頭恭し

眞言宗の古い寺でにぎやかな町の中にある。聖徳太子が立てられた由緒ある寺で多くの人々が参詣する。毎年初午会には、本像が御開帳され、馬頭観音とともに功德を賜るのである。



高山神社

一陣の風黄落の武将像颯爽と

騎乗銅像建城中
 颯爽勇姿高虎公
 郭櫓巡回追往時
 祠前拝禮思無窮

騎乗の銅像城中に立つ
 颯爽たる勇姿高虎公
 郭櫓を巡回して往時を追い
 祠前に拝礼すれば思い窮まり無し



城址の中央部に馬に跨り、颯爽とした勇ましい藤堂高虎公の銅像が建っている。角櫓を巡回し、高山神社に参詣すると、高虎公が四百年前、安納津城を再建した当時は偲ばれる。

この漢詩は、伊藤芳樹さんが伊勢の津七福神を巡られた時に詠まれ、それをご寄贈いただいたものであります。

(次号は結城神社と安楽寺です)



伊勢の津七福神 友の会のご案内

伊勢の津七福神が津市に開創して9年目を迎えました。

巡拝の方も6,000名(5月末)を越えました。

今200名の友の会会員の皆様のご協力のもと、この先も歩みを進めて行きたいと思っています。

是非ともこの活動に御賛同くださり、巡拝・感謝の心を育て、町おこしの夢を見てみませんか。

会員の方には年3回、友の会便りが届きます。特典もございます。

会費 : 1,000円/年間 金融機関 : 郵便局
郵便振替口座 : 00820-8-123136 口座名義 : 伊勢の津七福神友の会

《伊勢の津七福神友の会事務局》

〒514-0033 津市丸之内27-16 高山神社内

電話 : 059-225-8558

URL : <http://isenotsu7fukujin>

■伊勢の津七福神 友の会特典 (会員証をお見せください)

- ・うなぎのつたや 059-228-3005 100円引き
- ・榊原館 059-252-0206 日帰り入浴 お茶進呈
- ・谷石材 0595-21-2148 花筒5%引き
- ・はま作 059-228-3088 和菓子サービス
- ・松菱 7階彦兵衛 059-228-6082 ランチ700円以上 コーヒー1杯サービス
- ・ホテル三徳 059-223-3109 宿泊客にコーヒー一杯サービス
- ・お菓子處とらや本家 059-228-4802 1000円以上お買い上げでポイント5倍押し
- ・マキノ回生堂 059-228-5331 1000円以上お買い上げの方にティッシュひと箱
- ・長谷川印刷 059-228-4465 名刺100枚ご注文の方、一割り引き
- ・飯処しるべ(大門) 059-261-4116 食事の後、ソフトドリンク1杯サービス
- ・(株)日塗建 059-271-6066 塗装料から10%引き 相談に応じます



編集後記：ご意見、原稿お寄せ下さい。

四天王寺東堂を偲ぶ26号となりました。

自粛生活の折、七福神巡りをお勧めします。

池上 kanon@nifty.com

発行：伊勢の津七福神友の会事務局

〒514-0033 津市丸之内27-16 高山神社内